

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式（作業療法科）

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数								非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数	助手			
作業療法 科	人	人	6 人	人	6 人	人	6 人	人	41 人	14.8 人	
課程	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
計	人	人	6 人	人	6 人	人	6 人	人	41 人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と 生活 社会の理解	心理学	15	奥山 滋樹	兼任
		倫理学	15	徳田 幸雄	兼任
		教育学	15	牛渡 亮	兼任
		社会福祉学	15	千脇隆志、高梨友也	兼任
		情報管理学	15	丸山 千恵	兼任
		工学	15	岩渕 正則	兼任
		医学英語	7.5	矢野 大輔	専任
		スポーツ学	15	斎藤 友規	兼任
		社会行動学	7.5	田代 志門	兼任
		Basic Communication Training I	7.5	淀川 裕美、和田寿子	専任、兼任
		Basic Communication Training II	7.5	酒井 良隆	専任
専門基礎 分野	人体の構造と機能及び心 身の発達	解剖学Ⅰ	15	狩野 充浩	兼任
		解剖学Ⅱ	15	室井 由美子	兼任
		解剖学Ⅲ	7.5	狩野 充浩	兼任
		触診技術実習	22.5	矢野 大輔	専任
		生理学Ⅰ	15	狩野 充浩	兼任
		生理学Ⅱ	15	狩野 充浩	兼任

専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	生理学実習	22.5	狩野充浩、高田拓明、上遠野純子	専任・兼任
		運動学	30	矢野 大輔	専任
		運動学実習	22.5	上遠野 純子	専任
		人間発達（老年医学を含む）	15	上遠野 純子	専任
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	一般臨床医学	15	大沼 英子	兼任
		病理学	7.5	大沼 英子	兼任
		内科学	15	原田卓、木幡桂、堀田修、川上和義、伊藤修、大沼英子	兼任
		整形外科学	15	羽鳥正仁、鳥谷部莊八、大井直往、本地光弘、後藤昌子、上遠野純子	兼任・専任
		神経内科学	15	中村 起也	兼任
		小児科学	15	大沼 晃 他	兼任
		精神医学	15	佐藤 健太、島田真須美、酒井良隆	兼任・専任
		臨床心理学	15	宇佐美 貴章	兼任
		リハビリテーション医学	15	佐直信彦、本地光弘、原田卓、渡邊 裕志、小笠原康悦	兼任
		栄養学	7.5	笹山 由貴	兼任
		薬理学	15	矢野 梨恵	兼任
		画像診断学	7.5	伊藤 正敏	兼任
		救急医学	7.5	久志本成樹 古川 宗	兼任
		公衆衛生学	7.5	中谷 直樹	兼任
		予防医学	7.5	中谷 直樹	兼任
専門基礎分野	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	15	藤井 貴	専任
		関連職種連携論Ⅰ	7.5	上遠野 純子	専任
		関連職種連携論Ⅱ	7.5	上遠野 純子	専任
		Practical Communication TrainingⅠ	22.5	酒井 良隆、淀川裕美	専任

専門基礎分野	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	Practical Communication Training II	7.5	酒井 良隆、田邊 裕靖	専任・兼任
専門分野	基礎作業療法学	作業療法概論	15	上遠野 純子	専任
		作業療法理論	7.5	上遠野 純子	専任
		基礎作業学概論	7.5	淀川 裕美	専任
		基礎作業学実習	22.5	酒井 良隆、佐藤 秀美	専任
		作業療法研究法	15	石川 陽子	兼任
		作業療法特論Ⅰ	15	淀川裕美、矢野大輔、	専任
		作業療法特論Ⅱ	15	酒井 良隆、佐藤 秀美	専任
		作業療法特論Ⅲ	15	藤井 貴、酒井 良隆、矢野 大輔、淀川 裕美、上遠野純子、佐藤秀美	専任
	作業療法管理学	作業療法管理学Ⅰ	7.5	藤井 貴	専任
		作業療法管理学Ⅱ	7.5	藤井 貴	専任
	作業療法評価学	基礎検査測定実習	22.5	藤井 貴・矢野 大輔	専任
		作業療法評価学概論	7.5	藤井 貴	専任
		身体機能作業療法評価学Ⅰ（中枢）	15	矢野大輔、佐藤秀美	専任
		身体機能作業療法評価学Ⅱ（整形）	15	矢野大輔、佐藤秀美	専任
		身体機能作業療法評価学Ⅲ（内部）	7.5	矢野大輔、佐藤秀美	専任
		高次脳機能作業療法評価学	15	淀川 裕美	専任
		精神機能作業療法評価学	15	酒井 良隆	専任
		発達過程作業療法評価学	15	上遠野 純子	専任

専門分野	作業療法評価学	高齢期作業療法評価学	15	藤井 貴	専任
		身体機能作業療法評価学演習	15	藤井隆、矢野大輔、佐藤秀美	専任
		高次脳機能作業療法評価学演習	7.5	淀川 裕美	専任
		精神機能作業療法評価学演習	7.5	酒井 良隆	専任
		発達過程作業療法評価学演習	7.5	上遠野 純子	専任
		高齢期作業療法評価学演習	7.5	藤井 貴	専任
		MTDLP	7.5	佐藤 秀美、藤井 貴	専任
	作業法治療学	身体機能作業療法治療学Ⅰ	15	矢野大輔、佐藤秀美	専任
		身体機能作業療法治療学Ⅱ	15	佐藤 秀美、矢野 大輔	専任
		身体機能作業療法治療学Ⅲ	15	佐藤 秀美、矢野 大輔	専任
		高次脳機能作業療法治療学	15	淀川 裕美	専任
		精神機能作業療法治療学	15	酒井 良隆	専任
		発達過程作業療法治療学	15	上遠野 純子	専任
		高齢期作業療法治療学	15	藤井 貴	専任
		日常生活活動実習Ⅰ	22.5	淀川 裕美	専任
		日常生活活動実習Ⅱ	22.5	淀川 裕美	専任
		仕事関連活動実習	22.5	酒井 良隆	専任
		余暇関連活動実習	22.5	酒井 良隆	専任
		代償学Ⅰ（スプリント・自具）	7.5	上遠野 純子、本地 光弘	専任・兼任

専門分野	作業法治療学	代償学Ⅱ	7.5	上遠野 純子	専任
		代償学Ⅲ	15	藤井 貴	専任
	地域作業療法学	地域作業療法学	15	淀川 裕美、佐藤 秀美	専任
		就労支援関連法規論	15	酒井 良隆	専任
	臨床実習	見学実習	40H	佐藤、矢野、淀川、上遠野	専任
		臨地実習	40H	佐藤、矢野、淀川、上遠野	専任
		臨床実習Ⅰ	320H	淀川、酒井、矢野	専任
		臨床実習Ⅱ	800H	藤井、酒井、佐藤	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
見学実習・臨地実習	1 年後期	作業療法概論	1 年前期
		リハビリテーション概論	1 年前期
		基礎検査測定実習	1 年後期
臨床実習 I	2 年後期	身体機能作業療法評価学 I II III	2 年前期
		高次脳機能作業療法評価学	2 年前期
		精神機能作業療法評価学	2 年前期
		高齢期作業療法評価学	2 年前期
		発達過程作業療法評価学	2 年前期
臨床実習 II	3 年前期・後期	身体機能作業療法治療学 I II III	2 年後期
		高次脳機能作業療法治療学	2 年後期
		精神機能作業療法治療学	2 年後期
		高齢期作業療法治療学	2 年後期
		発達過程作業療法治療学	2 年後期
		代償学 I	2 年後期
		代償学 II	3 年前期
		代償学 III	3 年前期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	学校自己評価委員会
委員名（委員長）	校長(委員長)、法人事務局部長、就職センター室長、進学相談室室長、教務部長、教務課長、総務課長、教務主任、学校保健委員
組織の開催頻度	1年に一度
組織の取り組み内容	・ 教員による自己評価
	・ 学生による授業アンケート
	・ 学校関係者評価委員会にて、自己評価に対する意見を徴している。
自己点検・評価結果の公表	H Pで公表（URL： https://www.tmc.ac.jp/report/hyoka/ ）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	なし
	委員構成等	校長、科長
	改善の仕組みの実際	内容を点検し、修整や改善している。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

卒業生、専攻分野に関する業界関係者等による学校関係者評価を実施することにより、自己評価について客観性・透明性を高め、適切に説明責任を果たすために評価報告書を公開している。